

# 大室古墳群(前橋市)

おおむろ

大室古墳群は大室公園として保存整備されている





前二子古墳→中二子古墳→後二子古墳→小二子古墳→M-1号墳→M-4号墳→大室はにわ館→梅木遺跡と回ってみる



梅ノ木遺跡という豪族の館跡もあるようだ(右下)



# 大室古墳群案内図 (おおむろこふんぐん あんないず)

公園には6世紀につくられた大型前方後円墳の前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳があります。また、小二子古墳、M-1号墳やM-4号墳もあります。6基の古墳を、それぞれ比べながら古墳巡りをしよう。

大室民家園にある赤城型民家は赤城山南麓特有の養蚕農家で2階で蚕を飼ったんだよ。隣の「大室はにわ館」には、前二子古墳石室復元市民プロジェクトで市民が製作した埴輪と古墳から発掘された出土品が展示してあるので、じっくり見学しよう。藤棚のベンチでのんびりしながらお弁当を食べよう。

37haの広大な面積を持つ大室公園は、雄大な赤城山の眺めが素晴らしい自然に恵まれた公園です。「日本の歴史公園100選」に選ばれました。また、園内には国指定史跡の前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳と小二子古墳をはじめ古墳や豪族の館跡として有名な梅木遺跡(うめのきいせき)があります。公園の東500mには家形埴輪で有名な伊勢崎市「赤堀茶臼山古墳(あかほりちゅうすずまこふん)」もあります。

## ④ 小二子古墳 しょうふたごこふん

前方後円墳。大きさ…38m・高さ…5.4m。後二子古墳と同じ頃に同じ向きで造られたことから、後二子古墳に葬られた人と深い関係の人の墓と考えられる。古墳から出土した埴輪が立てられているよ。どんなものがあるかな？

## ⑤ 藤棚 ふじだな

大室古墳の教室で市民参加でつくった藤棚です。大きなベンチを使って、講座や勾玉つくりやハニワ作りなどを時々やっています。古墳見学の時の休憩に使ってね。

## ⑥ 大室民家園と大室はにわ館 おおむろみんかえんとはにわかん

世界遺産になった「富岡製糸場」が出来てから群馬では養蚕が盛んになったんだよ。この家は、2階で蚕を飼う時に光と風をといわれるため、屋根の正面の一部が切り取られているのが特徴で「赤城型民家」と呼ばれています。民家園にある「大室はにわ館」には復元されたうま形ハニワや土器が飾ってあるよ。



## ③ 後二子古墳 うしろふたごこふん

大型の前方後円墳。大きさ…85m・高さ…11m。石室の前面からは、お墓の前で行われた儀式に使った土器や小さな刀、煮炊きをした跡などが見つかった。古事記に書かれた儀式を想像させる。石室の中に入れるよ。前二子古墳の石室となにが違うかな？

## ② 中二子古墳 なかふたごこふん

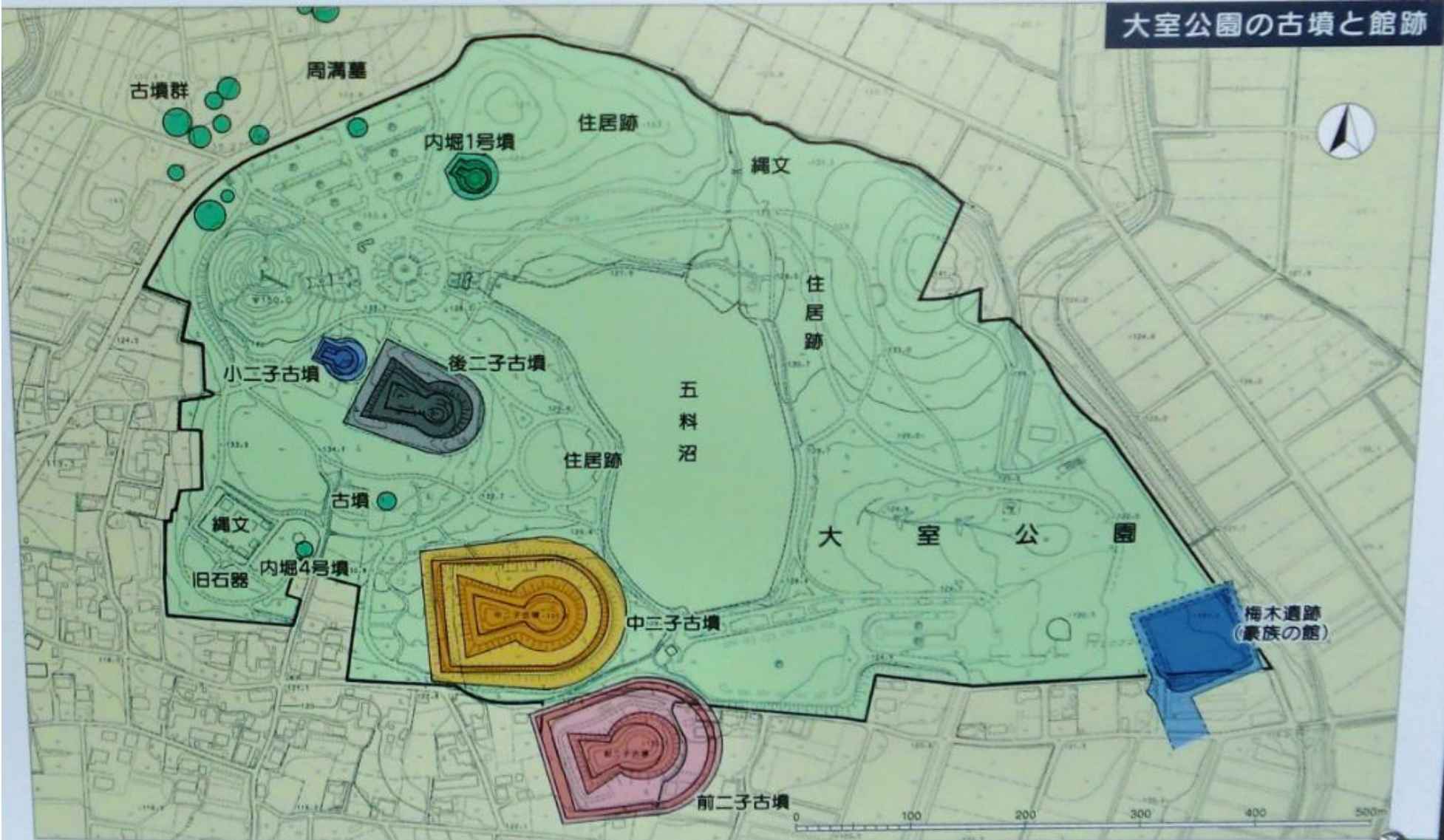
大型の前方後円墳。大きさ…111m・高さ…15m。大室にある古墳の中で一番大きく、堀を二重にめぐらせている。円筒埴輪や盾持人形埴輪などがみつかри、古墳の両側の中堤に復元されている。石室はまだみつかっていない。すごい宝物が眠っているかも…。

## ① 前二子古墳 まえふたごこふん

大型の前方後円墳。大きさ…94m・高さ…14m。群馬県を代表する狭くて長い横穴式石室だよ。明治11年に開けられた石室は長さが13mあります。石室の中から土器や金メッキされた装飾品が多数見つかった。石室に入り探検しよう！

## 梅木遺跡(うめのきいせき) 豪族の館跡

# 大室公園の古墳と館跡



## 前二子古墳

まえふたご 前方後円墳で左手が後円部、右手が前方部/2段築成で上段には葺き石が施されていた/6世紀初めの築造/北側から見たところ



「史蹟 前二子古墳」とある



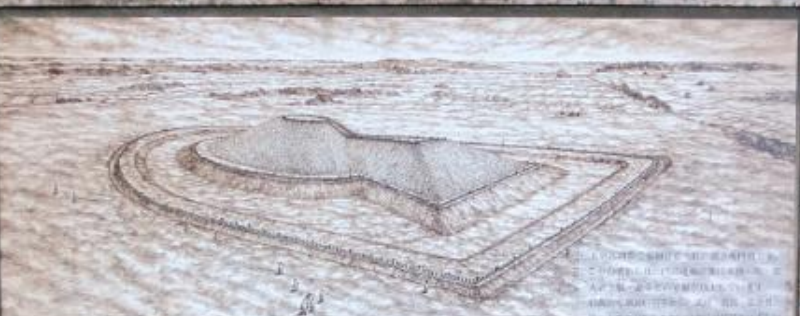
説明坂と石碑がある








左手が後円部、右手前が前方部/埴輪列が墳頂部、下段の平坦面、周堤上に巡っていたという/北西側から見たところ





前二子古墳

前二子  
長い石室  
古さのあかし

前二子古墳は、古墳時代前期の古墳である。この古墳は、石室が長いことが特徴で、古さのあかしである。

大室古墳群で最初に造られた前方後円墳と記されている

- ・ 大室古墳群で最初に造られた前方後円墳です。
- ・ この古墳からは、円筒埴輪の他に人物・馬・家たち・大刀・鞍・蓋などの埴輪が出土しています。
- ・ 特徴的な細長い石室から、武具・馬具・装身具・鏡・土器などたくさんの副葬品が発見されました。
- ・ 関東地方で最も古い時期の横穴式石室を持つ6世紀初めの古墳です。

石碑



さて、これは南東側から前方部方向を見たところ



同じく、くびれ部方向を見たところ/右手に後円部の横穴式石室が見えている



同じく、後円部方向を見たところ/右手前に説明坂がある



石室はベンガラで赤く塗られていたという

# 史跡 前二子古墳 (6世紀初め)

埋葬部の高さ  
を測ると  
古墳跡で疑  
いなく判明です。

長さ14.8m



石室 埴輪 古室 外周溝

古墳跡の中心部、埴輪は  
かなり残っています。

## ○細くて長い石室

石室は小崩りの石で積まれ、玄室と羨道が長いのが特徴です。床には、加工された凝灰岩の平石が敷かれ、石室はベンガラで赤く塗られています。玄室は扉石を立て閉じられていました。こからのことから、関東地方に横穴式石室が取り入れられた最初の頃のものであることがわかります。



## ○形象埴輪

人物・盾持人・馬・家・天刀・穀・蓋などがあります。中でも、蓋・威杖形埴輪が注目されます。



蓋 蓋の力も、入り組んでいる。



威杖形埴輪 威杖で土器を

○土毛野氏の先祖とされる豊城入彦命の墓と言いはれた古墳の一つで、古くから大切に保存されてきました。明治11年(1878)3月、村人により石室が開かれた際、多くの貴重な副葬品が発見され、記録が残されました。

## 主な出土品

○武器 ○馬具 ○農具 ○その他

- 鉄剣
- 大刀
- 武器
- 馬具
- 鞍轡
- 古馬具
- 銅板
- 銀金具
- 農具
- 鉄斧
- 鍬
- 鉄鍬
- 鉄鎌
- その他
- 土器
- 土師器
- 白磁
- ガラス製品
- 銅状金具
- 釘



石室に埋葬された土器

○出土品は当時の人々の興味をひき、県外からもたくさんの方が訪れました。明治13年(1880)にはイギリスの外交官、アーネスト・サトウもこれを見て、『上野地方の古墳群』(日本アジア紀要8巻)で紹介し、海外にも紹介しました。



サトウが見た前二子古墳

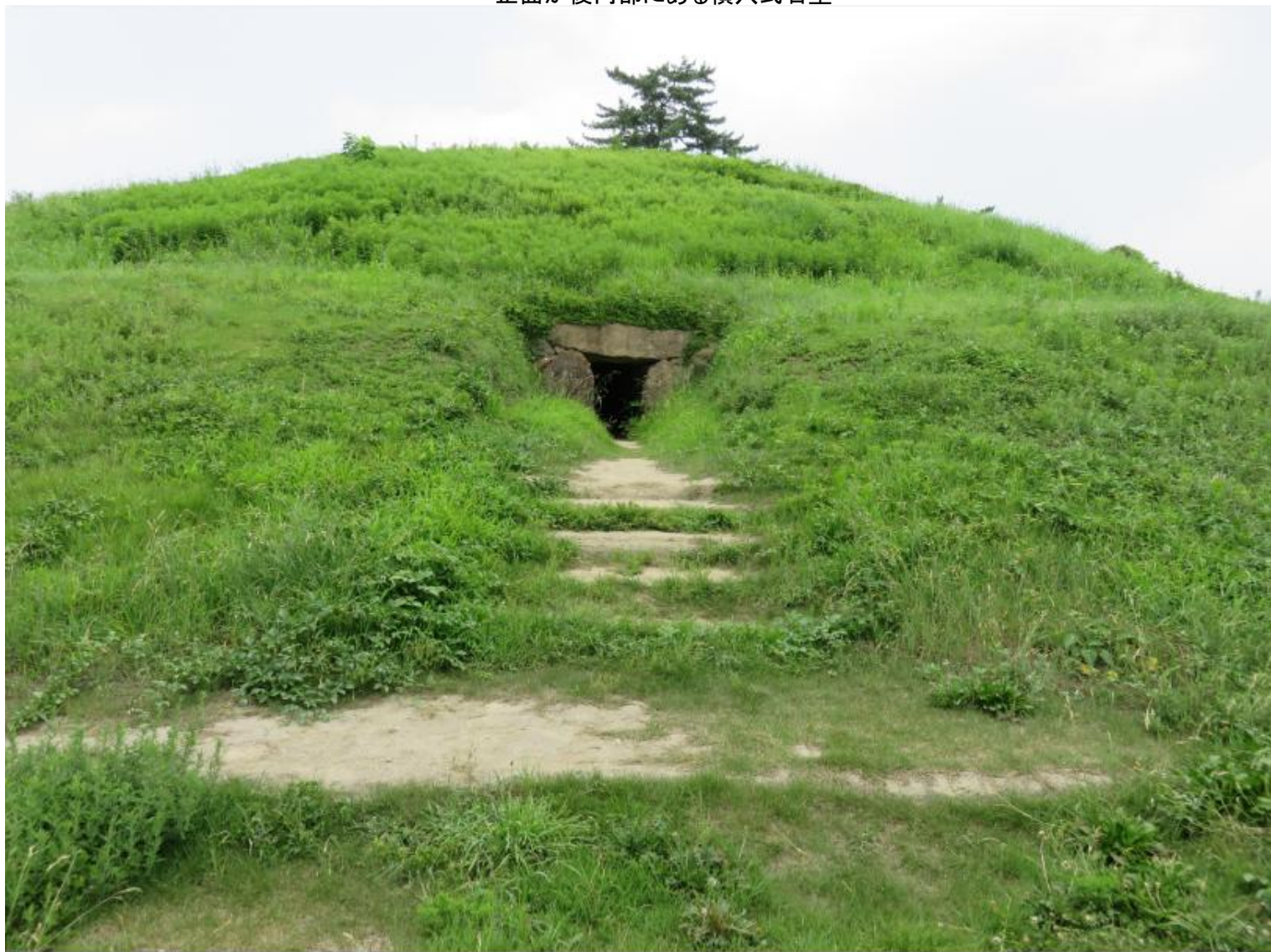




左手が前方部、右手前が後円部



正面が後円部にある横穴式石室



さて、石室を見てみよう/両袖型横穴式石室



石室内は照明が点いている



長い羨道部の向こうに玄室入口の玄門が見える/石室内がベンガラで赤く塗られていたという雰囲気が残っている



こんな塩梅/前方に立ちはだかるのは扉石



玄室の中が見える



このような感じで副葬品が並んでいたのであろうか





正面に玄室の奥壁が見える(一枚石ではないようだ)



振り返って外部方向を見たところ







さて、これは北東側から見た後円部/二段築成の様子が見て取れる



北側の周堀を北東側から南西方向に見たところ/右手が周堤でその右手は外周溝



さて、これは後円部墳頂から前方部方向(南西方向)を見たところ



その左手を見たところ

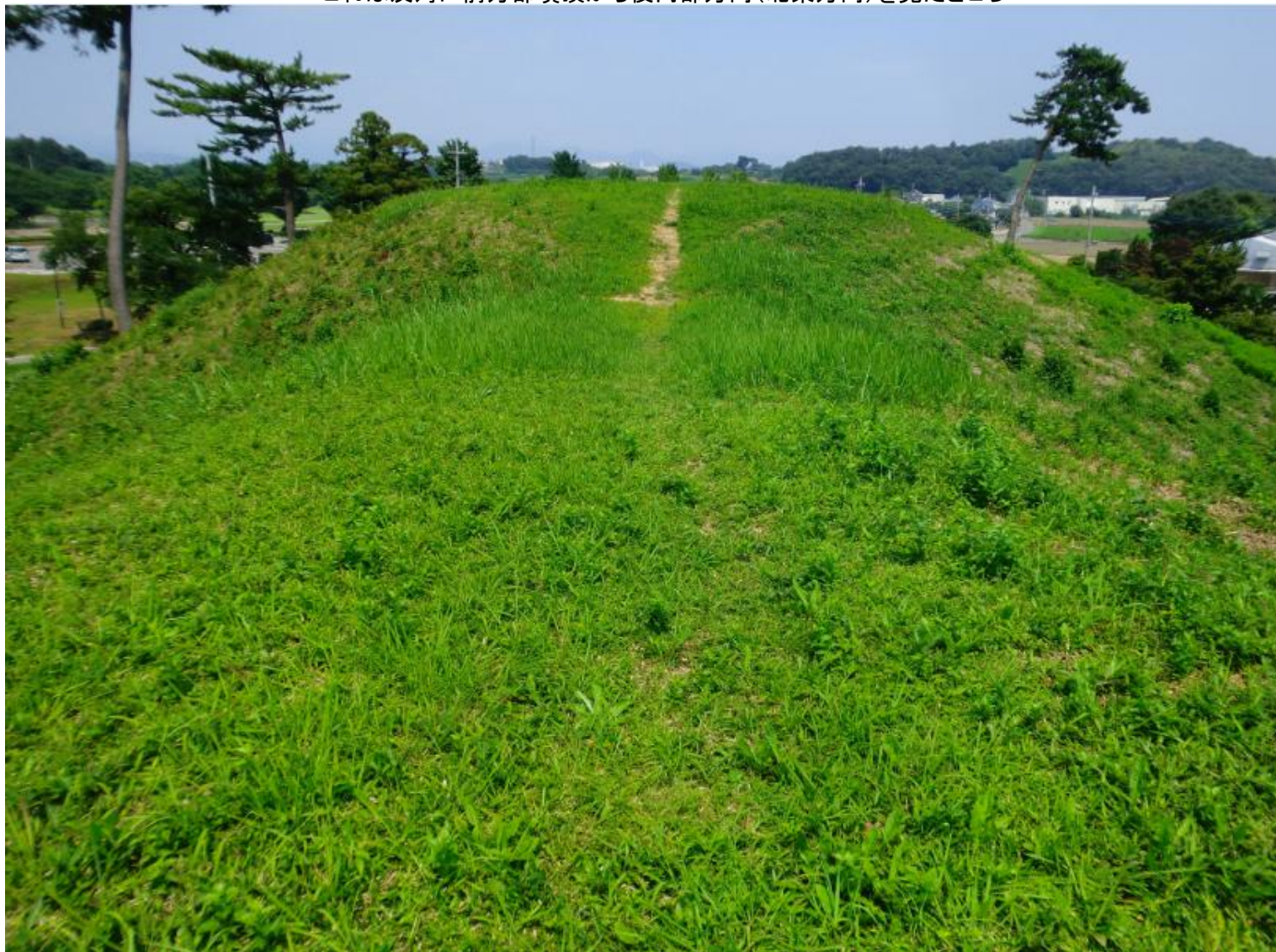




右手を見たところ



これは反対に前方部墳頂から後円部方向(北東方向)を見たところ



その左手を見たところ



右手を見たところ



中二子古墳  
なかふたご

これは中二子古墳傍に立つ標柱/「史蹟 中二子古墳」とある



大室古墳群の中で最大の前方後円墳/6世紀前半の築造



これはくびれ部付近の南側から後円部方向（北東方向）を見たところで、二重の堀の間の中堤に埴輪列が復元されている



左手の外堀を見たところ





中堤の上で東方向を見たところ/左手が後円部



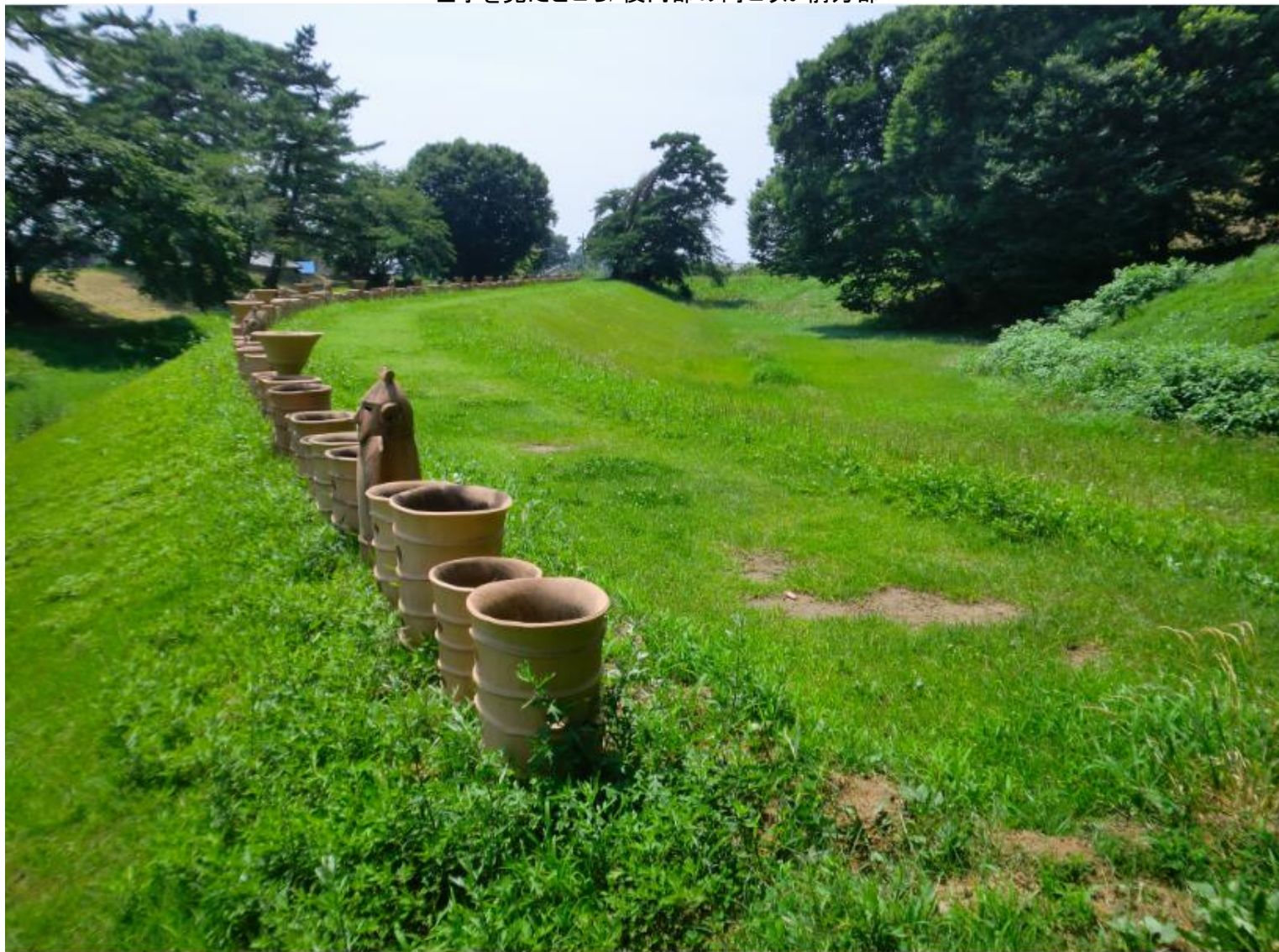
これは後円部を東方向から見たところ/手前の堀は内堀で、墳丘は二段築成となっているのが見て取れる



右手を見ると内堀が後円部を取り巻いて西方向へ廻っている



左手を見たところ/後円部の向こうが前方部



これは東側から北側の中堤を西方向に見たところで左手が後円部、右手の堀は外堀



振り返って東方向を見たところ/右手が後円部



後円部を北側から見たところ/右手方向が前方部



そこから右手方向を見たところ/左手が後円部、右手が前方部/手前の堀は内堀





さて、内堀の土橋状の部分(「わたり」と呼ばれる工事や儀式の時に通った通路らしい)を渡って墳丘を登ってみよう/前方中央やや左手に墳丘のくびれ部が見える



「わたり」を渡り前方部から後円部方向を見たところ/墳丘のくびれに沿って内堀も曲線となっているのが見て取れる



これは振り返って前方部を見たところ



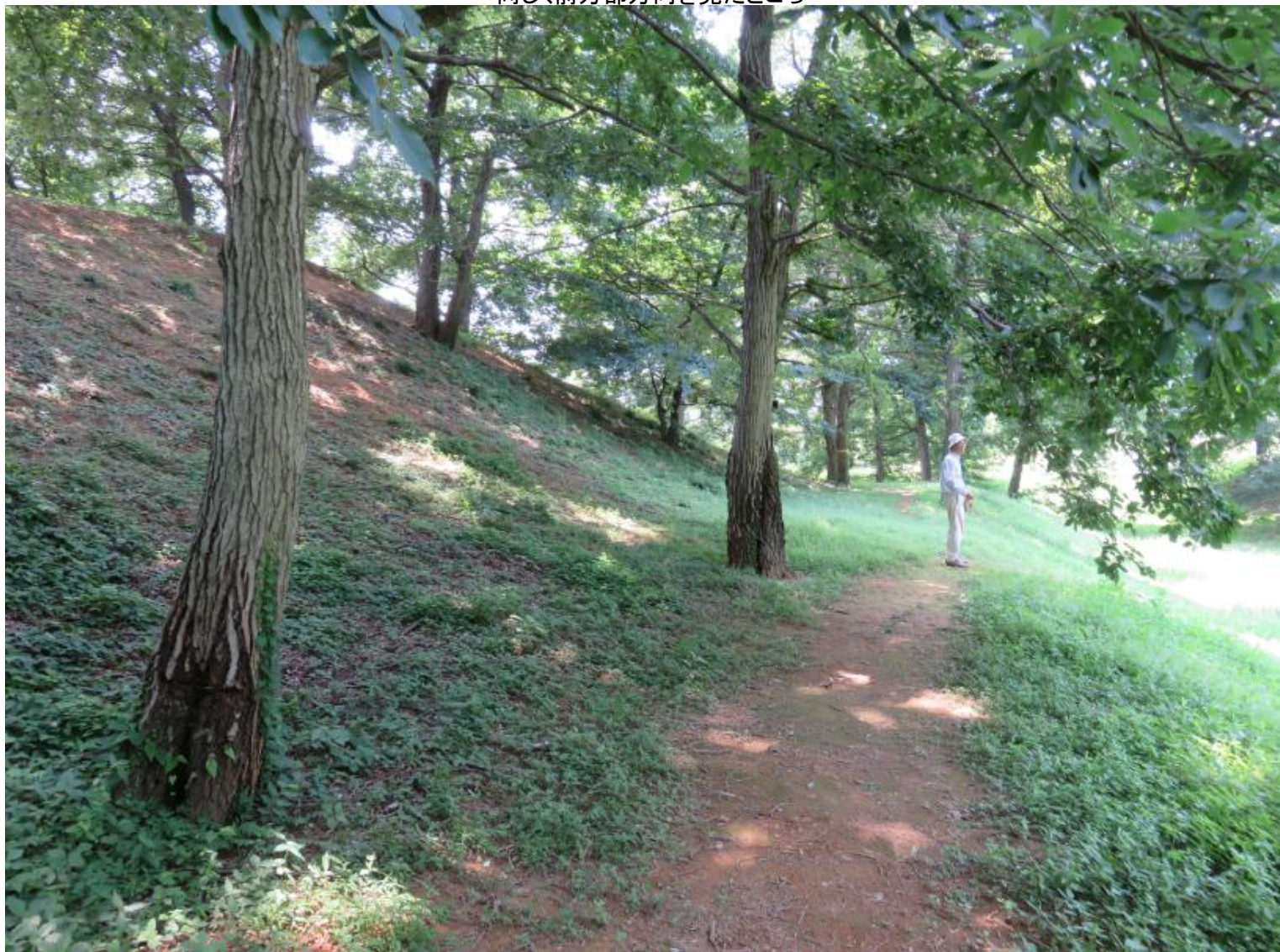
ここがくびれ部



そこで後円部方向を見たところ



同じく前方部方向を見たところ



さて、これは墳丘に登って、くびれ部から後円部方向を見たところ



後円部墳頂





その先は内堀が見える



振り返って後円部からくびれ部、前方部方向を見たところ



くびれ部から前方部方向を見たところ



正面が前方部



前方部墳頂



その先は内堀が見える



振り返って前方部からくびれ部、後円部方向を見たところ



これは前方部からくびれ部を見たところ





くびれ部で墳丘に登って来た所を見たところ/なお、中二子古墳の石室は今のところ見つからないらしい



## 後二子古墳

うしろふたご

さて、これは西側から見た後二子古墳/前方後円墳/正面中央が前方部で右奥が後円部/二段築成で手前に周堀が巡っている



北西側から見たところで、左手は前方部、その向こうが後円部



そこから左手を見たところ/周堀が前方部(右手)を取り巻いて続いている



これは南西側からくびれ部を見たところ/左手は前方部、右手が後円部



そこから左手(前方部)を見たところ



同じく右手(後円部)を見たところ



これは南西側から後円部を見たところ/石室が開口している/手前には説明坂がある





主体部は南向きに開口した両袖型横穴式石室/石室の両側に埴輪列が復元されている/墓道の右側の埴輪は大型で、左側の埴輪は小型であるという

## 後子古墳

### 横穴式石室

○石室の特徴


- 死者を葬る女室を広くした両袖型石室で、大きい石を使っているところに特徴があります。
- 女室は間仕切石で二つに分けられ、奥には遺骸とともに装身具・大刀など、手前には武器・馬具・須恵器などが置かれました。
- この石室は墳丘の基壇面を掘り下げて造られ、入口までは基壇面を掘りくぼめた墓道がついています。



(資料) 1.95m

### 円筒埴輪列

○墓道両側の埴輪列の違いがあるのには理由があります。



○墓道両側3.1m幅の墓道のうち、右側は大型の埴輪が並び、左側は小型の埴輪が並び、埴輪の大きさが異なるのは、右側の埴輪が北朝にかけて埴輪が足りなくなったりこわれたりしたため、小型の埴輪で補填することになったため、小型埴輪用の小型埴輪が不足し、右側より左側に埴輪をより柱状に見せようとして補填されたためではないかと考えられています。

### 副葬品

○武器


- 大刀2番
- 大刀金具2
- 小刀2把
- 鉄鏝1把
- 鉄釘
- 金環1個

○馬具


- 馬具

### 石室の比較

○石室の長さ、石の大きさ、天井の高さを、前子古墳の石室と比較しましょう。



### 土器のまつば



○奥に見えるのは、石室の入口前で行われた儀式に使われた土器の一種である須恵器の特徴からこうした儀式が何回も行われたと考えられます。葬られる死者と葬後の飲食を共にする儀式が行われたのではないかと考えられています。

土器：土師器（甕、鉢、杯）  
須恵器（高杯、壺）

鉄器等（小刀、鉄鏝）  
焼土（火を焚いたあと）

○出土した土器（土師器）を特徴から古い順に色分けしました。6世紀後半から7世紀前半にかけての土器が出土しています。



1期… 黄褐色土器  
2期… 赤褐色土器  
3期… 赤褐色土器

下段平坦面より下がって石室に出入りするために、石室前面に溝状に地面を掘り込んだ墓道がある



中を覗いてみよう



羨道、玄室からなり、玄室に向かって1段下がる



玄室内部



正面が玄室の奥壁



玄室手前から石室入口を見たところ



これは南東側から右手に後円部及びその左奥に前方部を見たところ





これは北側の周堀を東側から見たところ/周堀は後円部を取り巻いて西方向へ廻っている



これは北東側から後円部を見たところ/二段築成になっているのが見て取れる



これは北西側から前方部を見たところで手前に説明坂がある





後二子古墳

昭和24年1月8日撮影  
4月27日

前二子古墳と後二子古墳は、古墳時代中期の古墳である。後二子古墳は、前方後円墳の形をしており、墳丘の周囲には埴輪が敷き詰められている。この埴輪は、古墳の内外を区別する役割を果たしている。また、埴輪には、古墳の所有者の氏名や地位を示す文字が刻まれている。後二子古墳の埴輪には、「後二子」という文字が刻まれている。これは、古墳の所有者が「後二子」の氏名を冠していたことを示している。また、埴輪には、古墳の築造年代を示す文字も刻まれている。後二子古墳の埴輪には、「5世紀」という文字が刻まれている。これは、古墳の築造年代が5世紀であることを示している。

埋葬の  
儀式を偲ぶ  
後二子



後二子古墳1



後二子古墳2

前・中二子古墳より小さく、6世紀後半の築造

前・中二子古墳より小さい前方後円墳です。  
墳丘から人・馬・家などの埴輪が出土して  
います。円筒埴輪列の中には親子猿の付い  
たものもあります。  
造られたのは6世紀後半とされます。

少し近寄って見たところ/正面は前方部



さて、くびれ部から墳丘に登ってみよう



左手(前方部)を見たところ





右手(後円部)を見たところ



これはくびれ部から後円部方向を見たところ



後円部墳頂



その先は周堀が見える



振り返って後円部からくびれ部、前方部方向を見たところ



くびれ部から前方部方向を見たところ



前方部墳頂



その先は周堀が見える





振り返って前方部からくびれ部、後円部方向を見たところ



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



## 小二子古墳

しょうふたご

前方は北東側から見た小二子古墳/小規模な前方後円墳/左手が後円部、右手が前方部/6世紀後半の築造



北西側から見たところ/2段築成で、下段は帆立貝形、上段は柄鏡形/埴輪列が復元されている



南西側から後円部とくびれ部を見たところ/後円部に石室の入口が見える



石室は半地下式の袖無型横穴式石室であるらしいが、入口は石で塞がれている



後二子古墳と同時期に方向を揃えて造られていることから、後二子古墳と関わりの深い人物の墳墓であると考えられるという

## 小二子古墳 (6世紀後半)

この古墳は、後二子古墳とともに「史跡後二子古墳並小古墳」の名称で史跡に指定されています。墳丘の長さ38mの小前方後円墳で、後二子古墳と西の山との間に向きをそろえてはめ込むように造られています。



冢 鏡 大刀 鞍 鞆 盾

### ○後円部の埴輪群

家形埴輪の周りに鬘が立ち、その外側を大刀・鞍・鞆・盾が取り囲んでいます。



### ○前方部の埴輪群

盛装の男子・武人・重女・農夫などの人物や馬・盾・鞍が並びます。このような埴輪は、下段に置かれることが多く、前方部上に置かれたこの例は珍しいものです。



馬 農夫 重女 武人 盛装の男子

### ○埴輪の復元

- ・復元した埴輪の種類と数や位置は、下段の平面図や周壁に崩落していたものから想定しました。
- ・埴輪の位置と形の不確かな部分は色を薄くしてあります。

### ○石室

石室は壊されていましたが、全長6m、奥壁部分で幅1.8m、高さ1.8mの横穴式石室とみられます。石室の入口は石で塞がれ表面は粘土で覆われていました。



調査された石室

### ○墓前のまつり

後二子古墳と同じように、石室の入口付近に焼土が二カ所あり、儀式に使われた土器が出土しました。



儀式に使われた土器



前方部の埴輪群は盛装の男子、武人、巫女、農夫などの人物や馬・盾・鞆が並ぶ/このような埴輪は、下段に置かれることが多く、前方部上に置かれたこの例は珍しいものという/後円部の埴輪群は家形埴輪の周りに翳が立ち、その外側を太刀・鞆・靱・盾が取り囲んでいる



そこで右手を見たところ



少し退いて南東側から後円部を見たところ



M-1号墳

これは南側から見たM-1号墳/復元された帆立貝形の前方後円墳/6世紀後半の築造



# 内堀遺跡群 M-1号墳 (帆立貝式古墳) ほたてがいしきこふん

公園整備に先立ち実施した発掘調査（昭和63年度）の結果に基づき、平成5年度に盛土と芝張りによって往時の姿を想像し再現したものです。二列の石張り（鉄平石）は周堀の範囲を表しています。また、この下には発掘調査の終わった古墳がそのままの形で保存されています。

帆立貝の形をしたこの古墳は、発掘調査の結果、全長は周堀を含め約3.7m、幅は約3.9mであることがわかりました。墳丘の上部は後世の耕作によって削られていたので、高さや形ははっきりしません。二段に造られていたようです。石室もすでに壊されていましたが、石の跡から両袖型の横穴式石室だと思われます。墳丘からは円筒埴輪や人物、盾持ち人、馬、鞆、鞘、鉾、帽子などの形象埴輪が多数出土しました。

前・中・後の三子古墳（国指定史跡）と比べれば小規模ですが、墳丘に数々の埴輪を立ち並べ、威風を誇っていた当時の姿がしのべられます。墳丘の下の方や周堀を埋めた土の中の火山灰、また出土遺物等から6世紀後半に造られたものと思われる。



円筒埴輪



朝顔型円筒埴輪



人物



人物



盾持ち人



馬



鞆



鞘



家



大刀



盾



鉾

東側から見たところ



北側から見たところ/二段築成で、手前の二列の石張りは周堀の範囲を表しているらしい

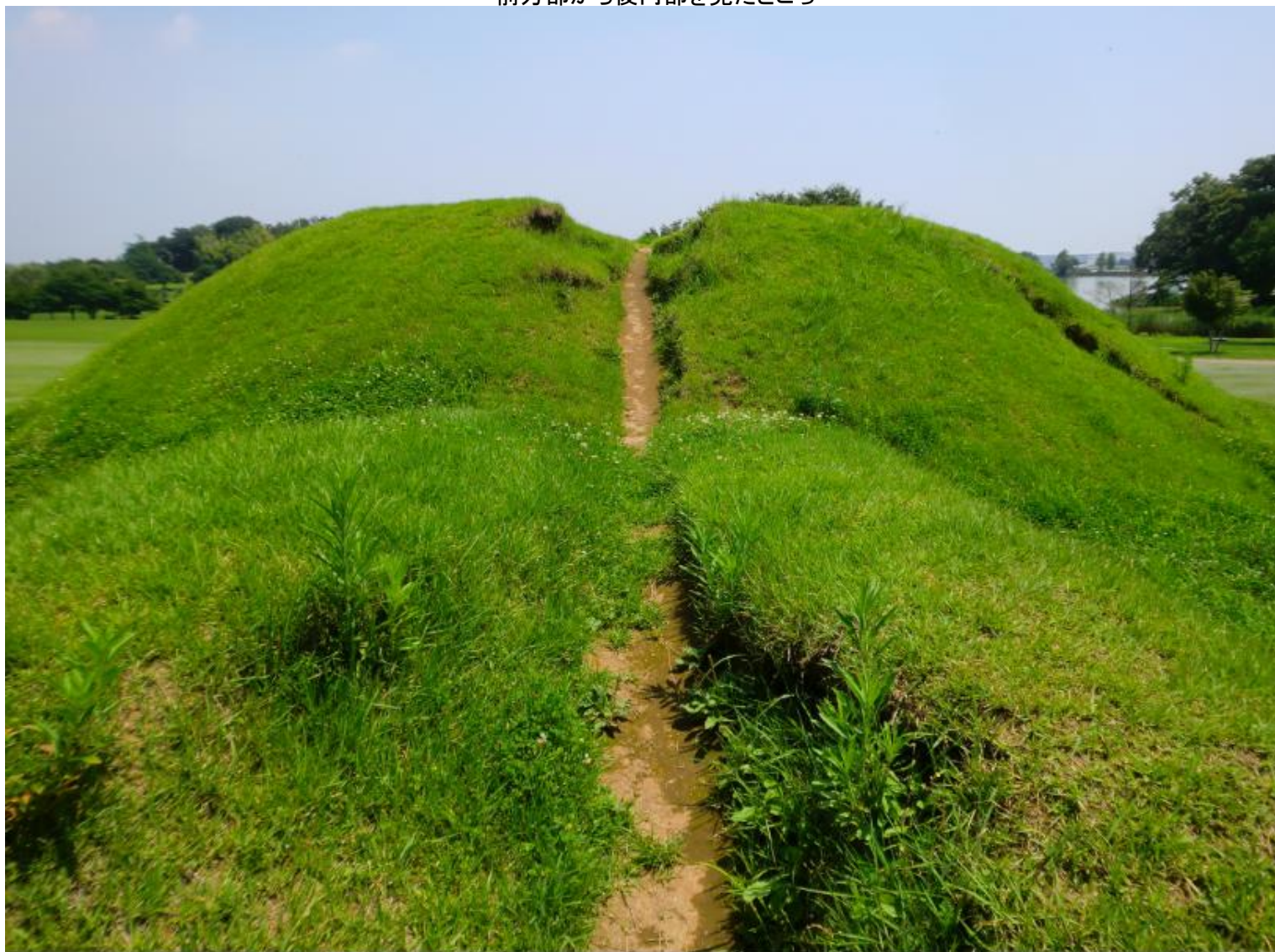


西側から見たところ





前方部から後円部を見たところ



反対に後円部から前方部を見たところ



もう一度、南西側から見たところ



M-4号墳

古墳時代の住居を復元したコーナーの一角にM-4号墳が復元されているという



これがそのM-4号墳/円墳/M-1号墳、小二子古墳より後の築造らしい/南西側から見たところ



南側から見たところ/埴輪列が復元されている



南東側から見たところ/墳丘には葺き石が施されている



## 大室はにわ館

ここは大室公園内にある民家園入口





正面は旧関根家住宅/前橋市指定重要文化財/江戸時代末期の建物





これが土蔵を改装した「大室はにわ館」



内部は大室古墳群の資料館となっており、充実した資料が所狭しと展示されていた



梅木遺跡  
うめのき

さて、前方が大室公園内に所在する梅木遺跡のエリアのようだ



こんな感じ/5世紀後半から6世紀初頭までの豪族の館跡で、前二子古墳の被葬者に関係しているのではということだが



その左手にこんな看板が/なぜ？



前方へ進んで振り返ってみるとこんな感じで土塁と堀の名残りのように見えるが気のせいかな





## 参考ホームページ

<http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/?s=%E5%A4%A7%E5%AE%A4%E5%8F%A4%E5%A2%B3%E7%BE%A4%EF%BC%88%E5%89%8D%E6%A9%8B%EF%BC%89&searchsubmit=>

[http://www.city.maebashi.gunma.jp/kurashi/230/266/268/p003150\\_d/fil/oomuro.pdf](http://www.city.maebashi.gunma.jp/kurashi/230/266/268/p003150_d/fil/oomuro.pdf)

<http://www.gunmaibun.org/remain/guide/tyumo/omurokohun.html>

<http://kofunnomori.web.fc2.com/gunma/maebashi/omuro.htm>

<http://www13.plala.or.jp/gunmanotabi/kofun-sub/kf-ohmuro.html>

<http://www.eniguma49.sakura.ne.jp/kofun.kodaiiseki/gunma/oomurokofunn/oomurokofunn.html>

[http://kofunmoodys.fc2web.com/maebasi\\_2\\_omuro.html](http://kofunmoodys.fc2web.com/maebasi_2_omuro.html)

<http://ktrmj15.webcrow.jp/p10gm/tpx0611omuro.htm>

